

「Ku 帯ヘリコプター衛星通信システムの技術的条件」について

1 審議開始の背景

災害時においては、救助活動や復旧対策を迅速かつ円滑に行うため、災害現場の状況を的確に把握することが重要であるが、機動性に優れたヘリコプターを用いて上空から情報収集を行うことが有効である。

現在では、地上の無線局を中継してヘリコプターから映像の伝送を行う方式が使われているが、運用範囲が地上の無線局の見通し範囲内に限られる制約がある。このため、耐災害性に優れ日本全体をカバーする通信衛星を利用することで、地上の無線局が設置されていない地域においても映像をリアルタイムで伝送可能とするヘリコプター衛星通信システムに対するニーズが高まっている。

このような背景を踏まえ、一昨年7月より情報通信技術分科会において「Ku 帯ヘリコプター衛星通信システムの技術的条件」の審議を開始し、昨年1月に標準画質レベルに係る技術的条件について一部答申を取りまとめたところ。

近年の放送のデジタル化等に伴い、ヘリコプター衛星通信システムにおける高画質映像伝送の実現への期待が高まっていることから、この度、高画質映像伝送も可能な Ku 帯ヘリコプター衛星通信システムの導入に向けて、必要な技術的条件について審議を開始するものである。

2 審議事項

Ku 帯ヘリコプター衛星通信システムの技術的条件

3 審議体制

衛星通信システムに必要な技術的条件を担当する既設の「衛星通信システム委員会」（主査：服部武 上智大学理工学部教授）において調査検討を行う。

4 答申を希望する時期

平成23年3月頃

5 答申が得られたときの行政上の措置

関係省令等の改正に資する。

ヘリコプター衛星通信システムの概要

参考

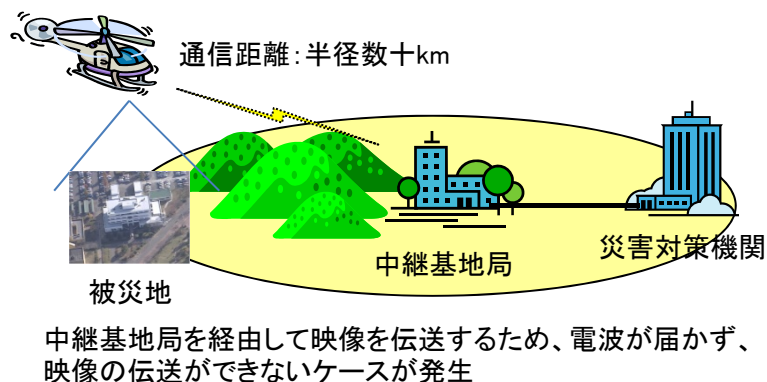
システム概要

危機管理においては、災害対策機関が、ヘリコプターを活用して、上空から被災状況を迅速かつ的確に把握し、被災状況に応じた的確な出動・応援指示等の災害応急対策を速やかに講じることが重要。



災害対策機関等のヘリコプターから高速回転するローターの隙間を縫って通信衛星に電波を直接発射し、衛星経由で映像伝送を行うヘリサットシステムの導入を検討。

現行システム



ヘリサット



標準画質のため、大画面では画像が鮮明ではない



高画質のため、被災状況の詳細を把握可能

検討のポイント

○標準画質レベルの映像伝送が可能なヘリサットの技術的条件については、昨年1月に一部答申済。



○近年の放送のデジタル化等に伴い、ヘリサットにおける高画質映像伝送のニーズが高まってきていることから、高画質映像伝送も可能なヘリサットの技術的条件について検討を開始。